

囲碁の先生がいらっしゃいました

校長 岡村 浩之

6月25日（火）に、日本視覚障害者囲碁協会の 代表理事 柿島 光晴 様と 広報部 高橋 安芸子 様が来校され、視覚障害者用の囲碁盤と碁石を寄贈していただきました。囲碁盤は通常の19路盤（縦横19本の線）ですが、裏返すと9路盤になるものでした。盤上の線は凸状になっているので、線が交差する場所を指で確認することができるようになっています。碁石は、白石は表面に凹凸無くつるつるで、黒石は三重の円が凸として施されています。また裏側は8方向に溝があり碁盤の線にはめ込むようになっています。

それでは、柿島代表理事による囲碁教室の始まりです。実は私は若い頃に囲碁を教わってもらったことがありましたが、19路盤のあまりの広さに圧倒され、思考が追いつかなく挫折した経験がありました。生徒は大丈夫かなあと少し心配して当日を迎えたのですが、そんな心配はいりませんでした。柿島代表理事は自作の6路盤を用意してくださっていました。これなら初心者でも、考える場所が限定されているのでとっても分かりやすいです。あとは柿島代表理事の説明のとおり碁石を置く場所を考え、楽しんで生徒は対戦をしていました。

それにしても、柿島代表理事の話はとても分かりやすい。一つ一つの言葉で碁石の動かし方のイメージが頭の中に明確に浮かんできます。それは、柿島代表理事の話には、無駄な言葉がないこと、話の順番を大切にされていること、そして何より話のトーンが優しいことに起因していると思いました。生徒はもちろん、職員も夢中になった囲碁教室でした。

なお、日本視覚障害者囲碁協会のホームページでは、当校や他の盲学校、他機関の訪問について紹介されていますので、ご覧いただけると幸いです。

日本視覚障害者囲碁協会のホームページ <https://aigo.tokyo>

